

木造モダニズムの出発点

# 三重大学レーモンドホール展

2014.4.16(水)ー4.30(水)

10:00-16:00 平日のみ 入場無料

三重大学





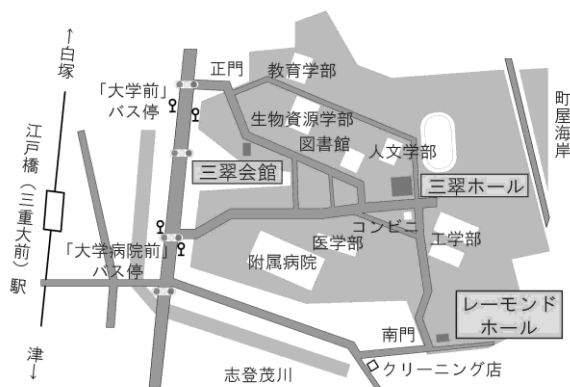
チェコに生まれ、フランク・ロイド・ライトの帝国ホテルの設計助手として来日して以来、生涯の大部分を日本での建築活動に費やしたアントニン・レーモンド(1888～1976)。彼はとりわけ日本の地域性、気候風土に根ざした伝統的建築や民家に深い関心を寄せ、それらをもとに、普遍的な方法として結実させた木造建築を、手掛けていきました。

昭和26年に三重県立大学の図書館として整備された三重大学レーモンドホールは、戦後のレーモンドの木造建築の出発点となった建築です。同時にそれは、戦後、物資の乏しい時期に、地域の期待を担って開学し、三重大学の源流の一つとなった三重県立大学を象徴する建築でもあります。

この展覧会は、この程保存改修工事を終えたレーモンドホールを会場として、レーモンドホールの変遷や建築的特色、関連するレーモンド建築、保存改修工事の概要をご紹介します。

## 交通案内

1. 津駅前バスのりば「4番」から「白塚駅前」、「太陽の街」、「三重病院」、「棕本」、「豊里ネオポリス」、「三行(みゆき)」行きで「大学病院前」下車。「大学病院」行きで「大学病院」下車。
  2. 津駅からタクシーで約10分。
  3. 近鉄江戸橋(三重大学前)駅から徒歩で約15分。
- \* 公共交通機関でのお越しを御願います。



主催 三重大学  
 協力 株式会社レーモンド設計事務所  
 問い合わせ 三重大学施設部施設企画チーム

Tel:059-231-9925 E-mail:raymond-sisetsu@ab.mie-u.ac.jp